

# 明日への手紙

手寫稿

作曲：池田綾子  
編曲：下田和輝

**楽譜解説**

この楽譜は、明治時代から昭和時代にかけての日本の社会変動を表現するための楽曲です。楽器編成は、ピコロ、フルート、オーボエ、バスーン、E♭クラリネット、B♭クラリネット1、B♭クラリネット2、B♭クラリネット3、B♭バスクラリネット、E♭アルトサクソフォン1、E♭アルトサクソフォン2、B♭テンサクソフォン、E♭バリトンサクソフォン、B♭トランペット1、B♭トランペット2、B♭トランペット3、Fホーン1&2、Fホーン3&4、トロンボーン1、トロンボーン2、トロンボーン3、ユーフォニアム、チューバ、エレクトリックベース、ティンパニ、ドラムス、パーカッション1（ビブラホン、スペンジングシンバル、シャッカ、トライアングル、ウイングチャイム）、パーカッション2（ Glockenspiel、ビブラホン）で構成されています。

楽曲の構成は以下の通りです：

- 1拍目：各楽器によるリズミカルな入場
- 2拍目：B♭クラリネット1、B♭クラリネット2、B♭クラリネット3、B♭バスクラリネットによるソロセクション
- 3拍目：E♭アルトサクソフォン1、E♭アルトサクソフォン2、B♭テンサクソフォンによるソロセクション
- 4拍目：B♭トランペット1、B♭トランペット2、B♭トランペット3によるソロセクション
- 5拍目：Fホーン1&2、Fホーン3&4によるソロセクション
- 6拍目：トロンボーン1、トロンボーン2、トロンボーン3によるソロセクション
- 7拍目：ユーフォニアム、チューバによるソロセクション
- 8拍目：各楽器による総合的なソロセクション

楽曲の特徴：

- 楽器編成：複数の木管楽器（クラリネット、サクソフォン、トランペット、ホーン）と金属管楽器（トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ）が主な構成です。
- 音色：柔らかく暖かい音色で、特にB♭クラリネットやE♭アルトサクソフォンのソロセクションが印象的です。
- リズム：複雑なリズムパターンが特徴的で、特に裏拍のリズムが難になります。
- 打楽器：打楽器（ティンパニ、ドラムス、パーカッション）が重要な役割を果たします。

楽譜上の注記：

- 楽譜上部：「柔らかく暖かい音色で。」
- 楽譜中央：「裏拍のリズムが難になりますので、気をつけましょう。」
- 楽譜下部：「打楽器が1人しかいない場合は、Glock. を演奏してください。」

9 [A]

Picc. Fl.1 Fl.2 Ob. Bsn.

E♭ Cl. Cl.1 Cl.2 Cl.3 B.Cl.

A.Sax.1 A.Sax.2 T.Sax. Bar.Sax.

Trp.1 Trp.2 Trp.3

Hrns.1&2 Hrns.3&4

Trb.1 Trb.2 Trb.3

Euph. B.Cl. Tub. E.B.

Tim. Drms. Sus.Cym. Vib.

(とても柔らかい音色で。)

Solo end

リズムが曖昧にならないように気をつけましょう。

サビに向かって盛り上げましょう。

**B**

17 18 19 20 21 22 23 24